

経済・産業振興特別委員会県内調査報告書

令和元年10月30日（水）に、「産業振興・国際ビジネス」及び「観光振興」について調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 梅 沢 裕 之 殿

経済・産業振興特別委員会 委員長 細 谷 政 幸

経済・産業振興特別委員会県内調査報告書

令和元年10月30日（水）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 横浜金属株式会社、県立大磯城山公園
- (2) 出席委員 細谷委員長
榘、永田(磨)、川本、柳下、小島、堀江、鈴木、佐藤(圭)の各委員
- (3) 調査日 令和元年10月30日(水)

2 横浜金属株式会社

(1) 調査目的

横浜金属株式会社は、スクラップ原料からの貴金属精錬を主な事業とし、貴金属製品の製造から販売まで扱っている企業である。

また、同社は取引及び雇用を通じて地域に貢献し、かながわのものづくりを支えるとともに、経営環境の変化に即応できる柔軟な経営体制を持ち、積極的な技術開発を行うなど、他の中小企業の模範と認められる工場である、かながわ中小企業モデル工場にも指定されている。

そこで、横浜金属株式会社における中小企業の活性化に関する取り組みを調査することにより、今後の産業振興についての委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

スクラップ原料からの貴金属精錬を生業にしており、その中核を担うのが、今回見学してもらう創業61年の相模原の工場であるが、年数もたっており、かなり老朽化しているため、来年から、新設備を導入して3年計画で建て直す計画である。

鉱山資源の枯渇が叫ばれて久しいが、貴金属スクラップは今後も継続的に発生するもので、当社の事業は資源の有効活用、環境への配慮と地球的な課題解決にも直結しているものなので、使命感を持ち事業活動を推進している。

貴金属は限りある資源だが、リサイクルは可能といった点に当社の可能性があり、扱っている貴金属は金銀のみならずプラチナやパラジウムといった貴金属もある。捨てればごみ、分ければ資源と言われるとおり、スクラップを都市鉱山ととらえ、貴金属という貴重な資源に早くから目をつけてきたのが当社の強みである。

ISO9001:2008認証を取得し、品質管理体制を組んでいる。また、企業の使命である環境問題への取り組みでは、グループとしてISO14001を取得し、JIS工場の管理体制を生かし、環境システムを取り入れた企業を目指している。

日本の代表的な企業・団体に構成される一般社団法人日本経済団体連合会や、日本有数の貴金属地金商が組織する業界団体である一般社団法人日本金地金流通協会に加盟している。なお、日本経済団体連合会については、本来なら加入の

かなわない企業規模だが、貴金属流通、リサイクル分野において先進的な取り組みをなし遂げてきたことが評価され、2002年に加盟した。また、推薦を受け2008年から、神奈川県、かながわ中小企業モデル工場の指定を現在も受けている。

(3) 主な質疑応答

質 疑 金の価格が上がると会社の収益は上がるのか。

応 答 一概には言えず、売上高は上がるが、調達高もふえてしまう。なるべく早く生産して、市場に出すことにより利益が上がる仕組みになっている。

質 疑 金は貴重なものだが、世界中の金の量はどのくらいあるものなのか。

応 答 世界の金の産出量は50メートルプール3杯分(14.5万トン)と言われており、そのうち2杯半分は取り出されたと言われている。

質 疑 携帯やスマートフォンから、どのくらいの貴金属が取れるのか。

応 答 スマートフォンはほとんど取れない。基盤についているので、昔のガラケーだと小指の爪の先くらいは少し取れる。

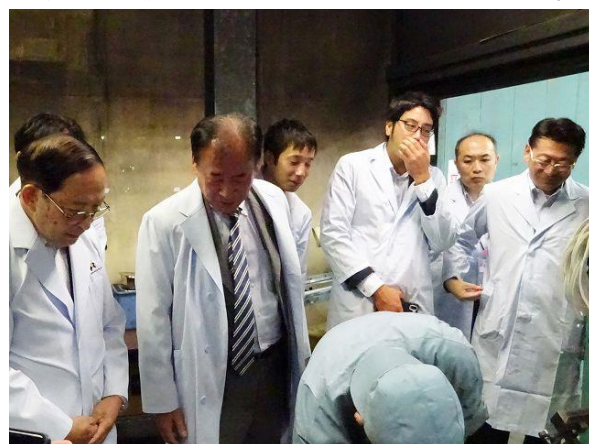
質 疑 水害を受けた時の対応、対策はあるのか。

応 答 高台になっているので、水害はないと思うが、構内にオーバーフローできる層があるので、液がこぼれるようなことはない。扱っている硝酸、塩酸などは希釈倍率が低いものなので、人体に影響があるほど被害が大きくなることはない。

質 疑 スクラップから貴金属の抽出はどのくらい時間がかかるものなのか。

応 答 精錬の過程で薬品にすべての元素が溶け込んだものだとすると、金は約1カ月、プラチナ、パラジウムが約2カ月、銀が約1カ月半かかる。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



(4) 調査結果

横浜金属株式会社は、貴金属流通、リサイクル分野において先進的な取り組みを実施しており、他の中小企業の模範と認められる工場であった。

以上のように、横浜金属株式会社における中小企業の活性化に関する取り組みを調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

3 県立大磯城山公園

(1) 調査目的

県立大磯城山公園は、湘南地域の西、大磯町の海辺に位置し、旧三井財閥本家の別荘地後を利用した旧三井別邸地区と、宰相吉田茂が暮らした邸宅を活用した旧吉田茂邸地区の二つの地区から構成されている公園である。

また、同公園は、神奈川県観光振興計画の基本施策、観光資源の発掘・磨き上げの取り組みである魅力ある観光地の形成の新たな観光の核づくりの候補地域として認定されている大磯地域の代表的な観光資源である。

そこで、県立大磯城山公園の観光に関する取り組みを調査することにより、今後の観光振興についての委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

平成16年ころから旧吉田茂邸の保存の機運が高まり、県立大磯城山公園の拡大区域として県が整備する方向性が定められた。

しかし、平成21年3月に発生した火災により本邸が焼失したことから、消失を免れた日本庭園や歴史的資源、大磯丘陵に連なる緑地を保存活用するため、平成21年7月に都市計画を決定し、県立大磯城山公園（旧吉田茂邸地区）として公園整備に着手した。

平成29年度は、4月に旧吉田茂邸が開館したことなどから、県立大磯城山公園全体の来園者数は、過去最多となる約43万人に達するとともに、旧吉田茂邸の来館者数も、初年度として約10万人を突破した。平成30年度は、同公園全体への来園者数において前年に比べて約2割減となるも、旧吉田茂邸の開館前よりは多い利用状況となっている。

現在、公益財団法人神奈川県公園協会・湘南造園株式会社グループが令和4年3月31日までの期間で指定管理者として管理運営を担っている。

利用促進の主な取り組みとして、旧吉田茂邸地区の庭園ガイドがある。利用者が庭園の魅力や歴史を存分に楽しめるように、NPO法人大磯ガイドボランティア協会と連携して、土日祝日には常駐ガイドを置き、平日は、事前予約を受け付け、利用者と一緒に庭園をめぐりながらガイドを行って、好評を得ている。

ほかには、大磯オープンガーデンがあり、4月、5月に行うイベント、おおいそフラワーフェスタ（オープンガーデン）を、大磯町一帯の邸園と協力して実施している。また、もともとあった旧三井別邸地区で夜のライトアップを実施しており、多くの方が訪れ盛況である。

広報活動として、イベント情報などを、ホームページやSNS、公共交通機関でのポスター掲示、ラジオや新聞等への掲載依頼を行うなど、さまざまな媒体を活用した情報発信にも取り組んでいる。

(3) 主な質疑応答

県立大磯城山公園を視察しながら、各自質疑を行った。



(4) 調査結果

県立大磯城山公園は、新たな観光の核づくりの候補地域として認定されている大磯地域の代表的な観光資源として、利用促進の取り組みを行っていた。

以上のように、県立大磯城山公園における観光に関する取り組みを調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

<参 考>

1 随 行 者 安岡主査（議会局議事課）、長沼副主幹（国際文化観光局総務室）、
合田主幹（産業労働局総務室）、藤森副主幹（県土整備局総務室）

2 調査箇所側出席者

（1）横浜金属株式会社

横浜金属株式会社執行取締役室長、同業務部長、同生産部門参事補、
同総務課係長、前田産業振興課副課長

（2）県立大磯城山公園

大磯町郷土資料館 館長、森尻都市公園課長、相原平塚土木事務所長、
磯辺同道路都市課長